

■ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
この取扱説明書と施工説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
 - ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です

やけど、漏水をした場合の処置

この絵表示は、「分解禁止」の内容です

やけど
漏 水

この絵表示は、「接触禁止」の内容です

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

やけどをした場合は、すぐ、その箇所に水を流しながら冷やしてください。そして専門の医師の診察を受けてください。
漏水した場合は元栓、または止水栓を閉めてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。
そして専門の業者に修理を依頼してください。

警告

給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。

禁止

85℃以上はダメ

85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。

禁止

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

小さいお子様だけの使用は避けてください。

禁止

やけど・けがをするおそれがあります。

分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。

分解禁止

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

高温の湯をお使いのときには吐水口は高温になっています。直接肌を触れないでください。

接触禁止

やけどをするおそれがあります。

湯をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。

強制

確かめない

高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

湯をお使いになるときは、必ずレバーを水側にしてから開栓してください。その後徐々に湯側を開栓し、お好みの温度に調節してください。

接触禁止

湯側を先に開栓すると、高温の湯が吐水して、やけどをするおそれがあります。

レバーハンドルの位置で湯温を確かめた後、吐水してください。

強制

位置を確かめて

確かめない

高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

高温の湯をお使いの後は、必ずレバーを水側にして、しばらく水を流してから止水してください。

強制

熱湯

水

水を流さないと次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

警告

お湯を使用した後で次に使用する時、若干温度変化する場合がありますので、しばらく吐水させて湯温が安定してからお使いください。

強制

湯温が安定してから

しばらく吐水させないと、やけどをするおそれがあります。

シャワー仕様の場合

シャワーには60℃以上のお湯を
通水させないでください。

禁止

60℃以上はダメ

通水させると器具が破損し、やけどをするおそれがあります。

配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。

禁止

通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

器具に乗ったり、よりかかったりして無理な力を加えないでください。吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回さないでください。

禁止

器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワー仕様の場合
使用後は、シャワーホースを取りはずし、直射日光を避け保管してください。

強制

シャワーホースの外皮が劣化するおそれがあります。

めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

禁止

めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

強制

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

レバーハンドル操作の急閉止は、配管からの漏水を起こすことがありますので、ゆっくり操作してください。

強制

ゆっくり

ゆっくり操作しないと漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

修理のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

水栓の品番をご確認ください

水栓に貼ってある品番シールでご確認ください。シールの左下が品番です。(シールの貼付位置は「各部の名称」をご覧ください)

修理料金は技術料+部品代+出張料で構成されています

技術料…診断・故障箇所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検等の作業にかかる費用

部品代…修理に使用した部品代

出張料…製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用

KVK修理受付センター TEL 0120-474-161

上記フリーダイヤルは携帯電話からはご利用になれません。携帯電話からは**058-234-8946**をご利用ください。

受付時間／平日 9:00～18:30 土・日・祝日 9:00～17:00

株式会社 KVK

本社・工場/〒501-1195岐阜市黒野308/TEL058-239-3111 代表

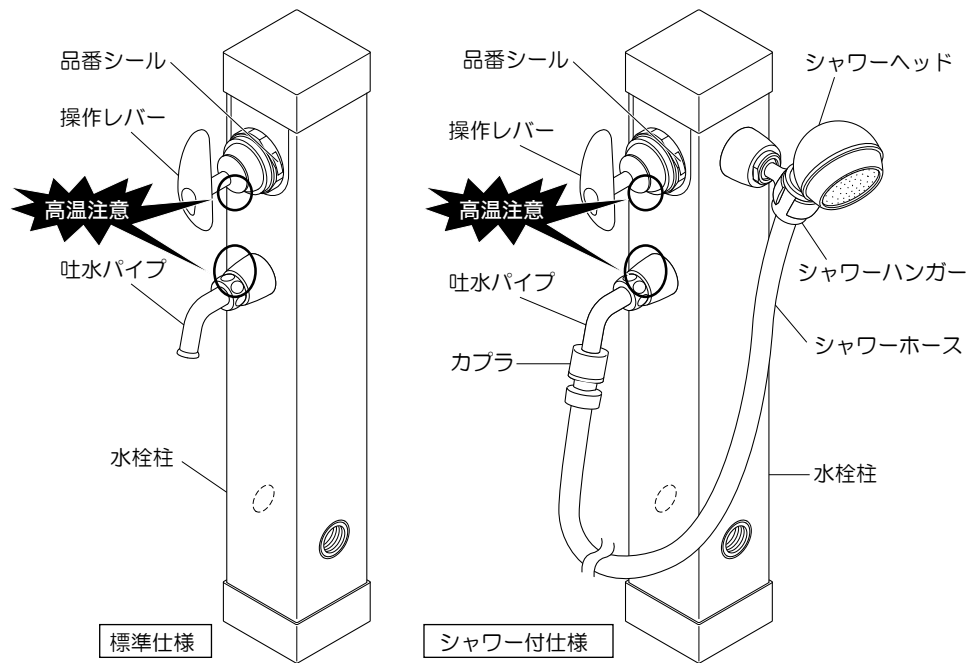
インターネットホームページ <http://www.kvk.co.jp/>

ご使用の前に / ご使用方法

給湯機の使用上のご注意

- ・給湯機の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ・操作レバーは、できるだけ全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。(瞬間型の場合)
- ・操作レバーを全開にすると吐水量が多すぎる場合は、止水弁であらかじめ流量調節を行ってください。(それでも給水圧力が高く、吐水量が多すぎる場合は操作レバーで調節を行ってください)
- ・給水圧力が低い時や水温が高い時は、給湯機が着火しにくくなる場合があります。その場合は給湯機の設定温度を少し下げてください。(瞬間型の場合)

各部の名称

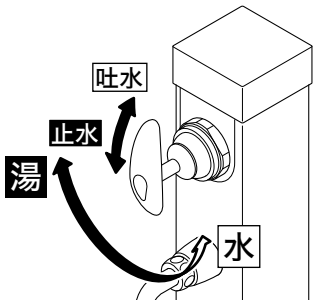


温度、出し止め、量の調節方法

操作レバーを右へ回すとぬるくなり、左へ回すと熱くなります。
操作レバーを上げると吐水、下いっぱいまで下げると止水します。
上へ上げるほど流量が増します。

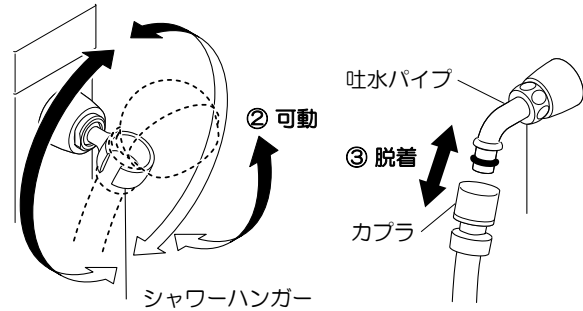
【**警告**】
湯水をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。
確かめないと、高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

【**注意**】
操作レバーは無理な力を加えずゆっくり操作してください。
急な操作や無理な力での操作はウォーターハンマー(水撃)音が発生し、配管からの漏水により家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

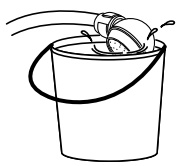


シャワーヘッドの使用方法

- ① 付属のシャワーヘッドを取り付けることにより、野外でのシャワー使用が可能です。
- ② シャワーハンガーは可動式のため、使用したい位置にシャワーヘッドを向けることが可能です。
- ③ シャワーホースと吐水パイプはカブラにより脱着可能です。



【**注意**】
シャワーヘッドやシャワーホースを水に浸けたままにしないでください。水が逆流するおそれがあります。



日常のお手入れ・保守

お手入れ方法

【**軽い汚れの場合**】
汚れは柔らかい布やスポンジで水洗いしてから、乾いた布で拭き取ります。

【**ひどい汚れの場合**】
中性洗剤をぬるま湯でうすめて、やわらかい布で汚れを拭き取ってから、乾いた布でから拭きします。

【**使ってはいけないもの**】
水栓には樹脂部品が多く使用されているため、シンナー・アセトン・ベンジン・カビトリ剤・酸性・アルカリ性系・塩素系洗剤等は使わないでください。金たわし・みがき粉等は外観にキズが入るおそれがありますので、使わないでください。

【**お願い**】メラミンフォームを使用する場合は、文字やマーク等印刷部分をこすらないようにしてください。

定期的な部品交換（部品は水栓の種類によって異なります）

使用年数

1 年 2 年 3 年 4 年 5 年 6 年 7 年 8 年 9 年 10 年 11 年 12 年

お客様による日常のお手入れ・点検

消耗部品の交換 (こまバッキン等)

磨耗劣化部品の交換

買い替え
ご検討

部品の交換

部品が磨耗・劣化すると水漏れ等の原因になりますので、交換が必要です。
・磨耗・劣化部品の例 (水栓の種類によって異なります) 例) カートリッジ、シャワーヘッド、シャワーホース、逆止弁等

【**注意**】

中でもより安全のため、逆止弁は早めの点検・交換をおすすめします。逆止弁が正常に機能しないと、状況によっては一度吐水した水が逆流するおそれがあります。(逆止弁の位置は「各部の名称」をご覧ください。逆止弁は仕様により付いていないものがあります)

部品交換のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

補修用部品の供給期間

この製品の補修用部品（機能維持に不可欠な部品）の供給期間は製造中止後10年です。

施工業者様へ

施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
 - ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

警告	湯水を逆に配管しないでください。 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。 禁止 水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。	給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。 禁止 85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。 禁止 器具が破損し、やけど・けがをし、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	給湯に蒸気を使用しないでください。 禁止 器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。	配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。 禁止 通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。 やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

注意	器具に強い力や衝撃を与えないでください。 禁止 器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。 点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	配管接続部をテーパねじに接続しないでください。 禁止 テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。 高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。 禁止 めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。	凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。 水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工方法

1

ワンレバー水栓柱の取付

① 給水・給湯配管の位置・寸法を確認してください。

・水栓柱と給水・給湯管との間に逆止弁を取り付けてください。
(配管は施工状態に合わせてお選びください。)

・給水・給湯配管を逆にしないでください。

1000
(1200)

889
(1089)

75

60

Rc1/2

シャワー付
仕様のみ

カッコ内はLFM(S)902L仕様です。

埋設する場合

給水・給湯配管の位置に合わせてください。不安定な場合は固定バンド等を用いて水栓柱に固定してください。

埋設しない場合

固定バンド等を用いて水栓柱を固定してください。

※

給湯配管

逆止弁

配管部材

※

配管部材

逆止弁

給水配管

※同梱されていません。現地でご準備ください。